

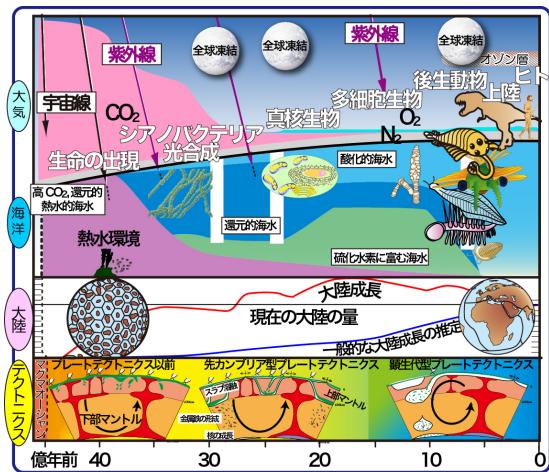
地球環境科学概論

生命地球史： 生命出現からカンブリア爆発まで

東京大学総合文化研究科：

小宮 剛 准教授

2015/10/13

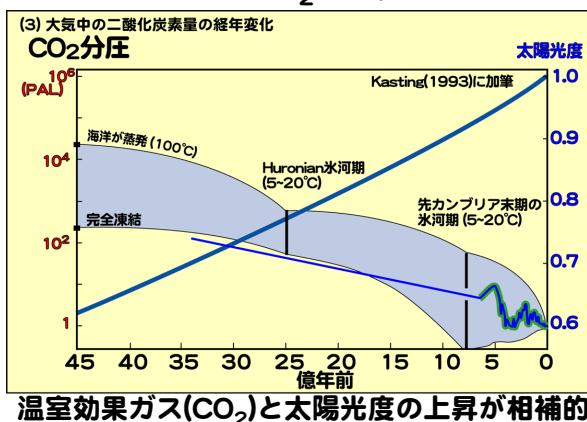


②他の地球型惑星の大気の組成

	成分	濃度 (bars)	存在比 (%)
金星 (Venus)	CO ₂	86.4	96
	N ₂	3.2	3.5
	H ₂ O	0.009	1×10 ⁻²
90 bar	Ar	0.0063	7×10 ⁻³
地球 (Earth)	N ₂	78	77
	O ₂	21	21
	H ₂ O	0.01	1
1 bar	Ar	0.0094	0.93
	CO ₂	3.55×10 ⁻⁴	3.5×10 ⁻⁴
火星 (Mars)	CO ₂	0.0062	95
	N ₂	0.00018	2.7
	Ar	0.00010	1.6
6-8×10 ⁻³ bar	H ₂ O	3.9×10 ⁻⁷	6×10 ⁻³
	CO ₂ , O ₂ , CH ₄	<1	
水星 (Mercury)	K	31.7 (太陽風 +隕石衝突)	
	Na	24.9 (太陽風 +隕石衝突)	
	O	9.5 (太陽風 +岩石反応)	
10 ⁻⁵ bar	Ar	7	
	He	5.9 (太陽風, solar wind)	
	O ₂	5.6 (太陽風 +岩石反応)	

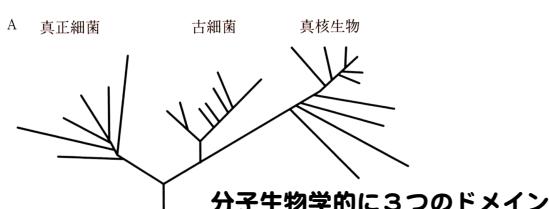
他の惑星はCO₂が多い。地球大気はO₂が特徴的

惑星の大気—CO₂の減少と気温—



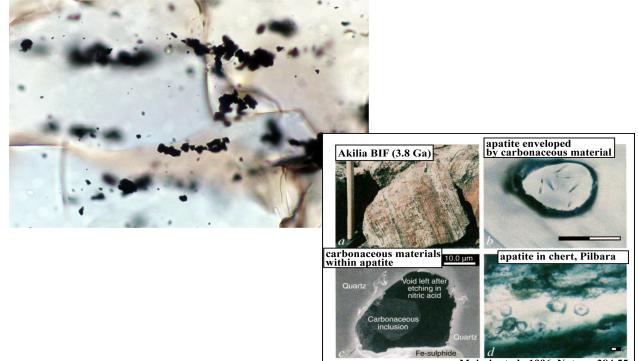
生命とは

- (1) 細胞膜の存在
→半開放的な境界膜に包まれている
- (2) 自己複製／自己増殖
- (3) 自己維持機能をもつ(代謝をする)
- (4) 進化をする

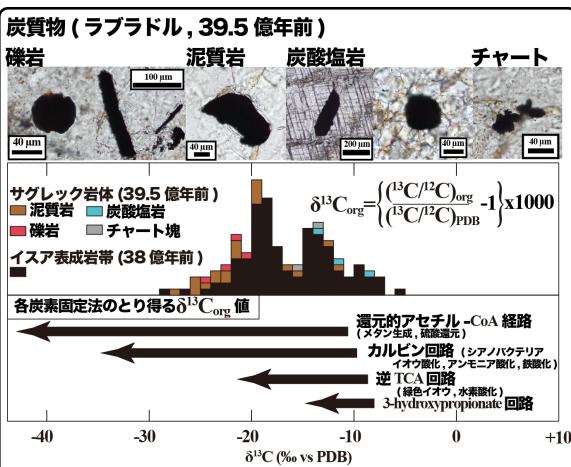


最古生命の痕跡

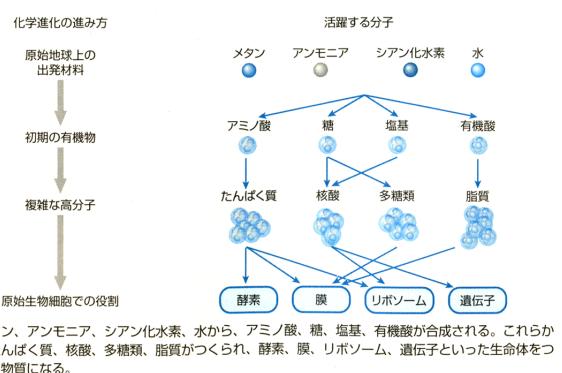
—38億年前西グリーンランド・イスアー



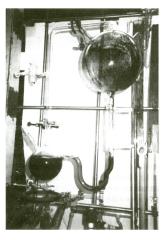
炭素同位体比は最古生命起源を示す



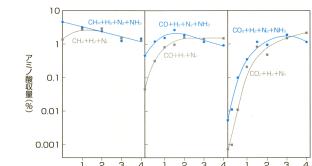
生命の起源—化学進化—



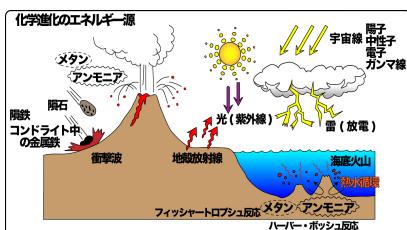
無機物質→生命へ



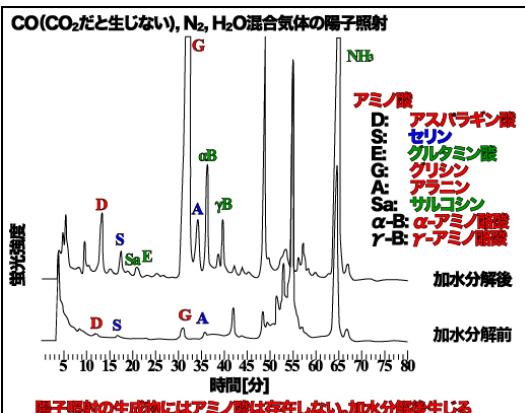
(図1) ミラーの実験装置、混合ガスモード、水素、水蒸気の混合を実現するための電極を用いた。電極は、二つのガラス管に接続されたガラス管で構成される。



①水素を含む還元的な条件でアミノ酸が形成
②生成物を系から除く機構
→非平衡(平衡だと逆反応)



①宇宙線照射によるアンモニアと有機化合物合成



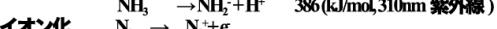
陽子照射の生成物にはアミノ酸は存在しない。加水分解後生じる

①宇宙線照射によるアンモニアと有機化合物合成

窒素分子の解離



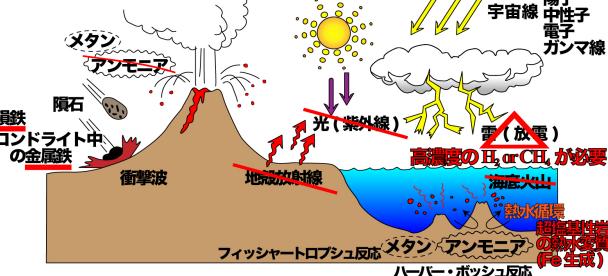
アンモニア分子の解離



イオン化



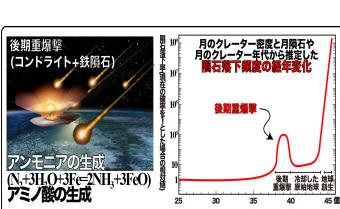
化学進化のエネルギー源 アンモニア源に基づく



②隕石衝突モデル

①衝撃波によるアミノ酸合成

②還元物質(Fe)の供給によるアミノ酸合成



試料名	実験試料 (N ₂)	実験試料 (NH ₃)
Fe (mg)	200	200
Ni (mg)	20	20
¹³ C (mg)	30	30
H ₂ O (mg)	130	130
NH ₄ NO ₃ (mmol)	0	1.95
N ₂ (μ mol)	15	15
衝突速度 (km/s)	0.9	0.9
¹³ C-エタン酸	1360	2200
¹³ C-プロピオン酸	440	1020
カルボン酸	88	136
¹³ C-ヘキサン酸	24	22
アミン	ND	tr.
¹³ C-2-メチルプロピオン酸	検出	検出
¹³ C-エカルバミン	7430	16700
¹³ C-エカルブアミン	280	945
¹³ C-プロピルアミン	12	89
¹³ C-ブチルアミン	未検出	微量検出
アミノ酸	¹³ C-グリシン	24

生命の起源物質の合成は可能？問題点は

化学進化の進み方

原始地球上の出発材料

初期の有機物

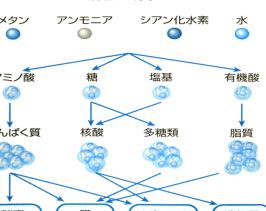
複雑な高分子

原始生物細胞での役割

メタン、アンモニア、シアノ化水素、水から、アミノ酸、糖、塩基、有機酸が合成される。これらからたんぱく質、核酸、多糖類、脂質がつくられ、酵素、膜、リポソーム、遺伝子といった生命体をつくる物質になる。

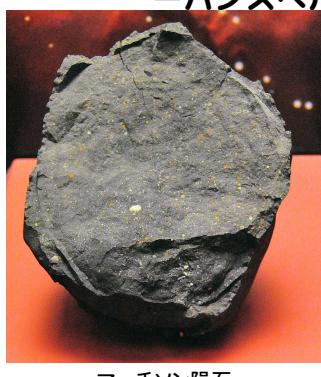
- ①初期大気の問題
- ②加水分解の問題
- ③高度の実験
- ④最適なpHなどの条件
- ⑤阻害分子の除去

活躍する分子



- ⑥ワンポット合成とステップワイズ合成
- ⑦正しい結合を必要とする。異性体が多く生じる。
- ⑧光学異性体

生命原材料物質は宇宙起源？ 一パンスペルミー

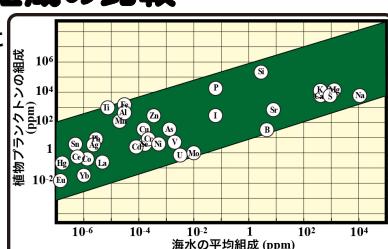


隕石の有機物と放電実験比較	
アミノ酸	マーチソン隕石 放電
グリシン	○○○○ ○○○○
アラニン	○○○○ ○○○○
α -アミノ-n-酪酸	○○○○ ○○○○
α -アミノ-酪酸	○○○○ ○○○○
バリン	○○○○ ○○○○
ノルバリン	○○○○ ○○○○
イソバリン	○○○○ ○○○○
プロリン	○○○○ ○○○○
ビペロリン酸	○ ○ ×
アスパラギン酸	○○○○ ○○○○
グリタミン酸	○○○○ ○○○○
β -アラニン	○○ ○○ ○○ ○○
β -アミノ-n-酪酸	○○ ○○ ○○ ○○
β -アミノ-酪酸	○○ ○○ ○○ ○○
γ-アミノ酪酸	○○ ○○ ○○ ○○
サルコシン	○○ ○○ ○○ ○○
N-エカルグリシン	○○ ○○ ○○ ○○
N-メチルアラニン	○○ ○○ ○○ ○○

生物と海水組成の比較

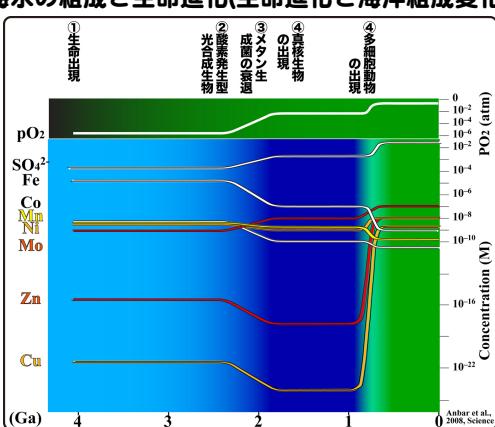
- ①生物組成と海水組成には相関が見られる。
- ②P, Si, Fe, Mn, Znなどが多い。
- ③KがNaに比べて多い。

(Komiyama et al., 2008)



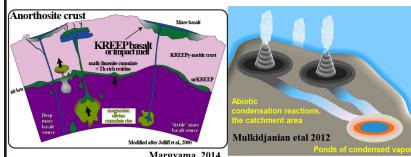
- ①なぜ、生命は海水に少ないPを核酸など重要な部分に使ったのか？
- ②なぜ、生命のK/Naは低いのか？ (cf. ナトリウムポンプ)

海水の組成と生命進化(生命進化と海洋組成変化の関連)



生命出現の場所

- ① 深海・熱水環境 脱水縮合反応
 - ①' 海底の粘土層 紫外線
 - ② 干渴→prebiotic molecule
の形成(粘土鉱物, 脱水縮合)
 - ③ 陸上の熱水環境(Yellowstone)
 - ③' 陸上の熱水環境
+ 気液分離 & 気相濃集泥湖沼
 - ④ 初期大陸(斜長岩+KREEP)



40~35億年前—深海から—

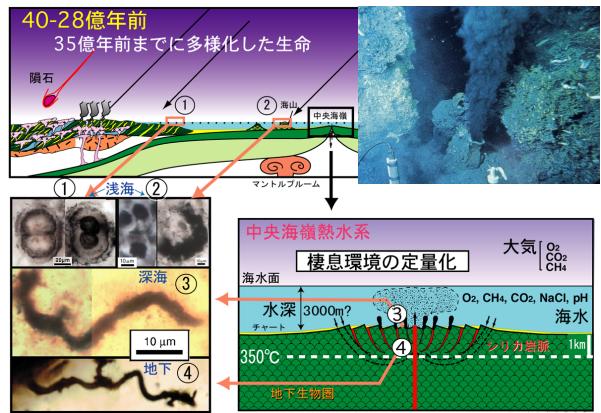
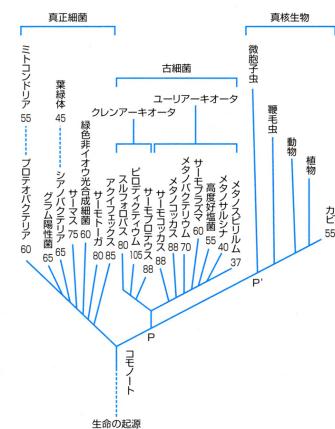
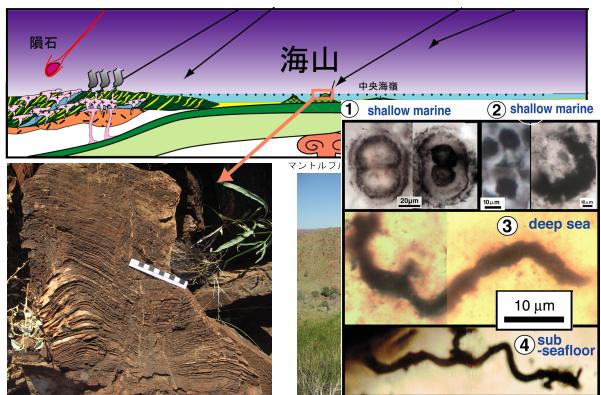


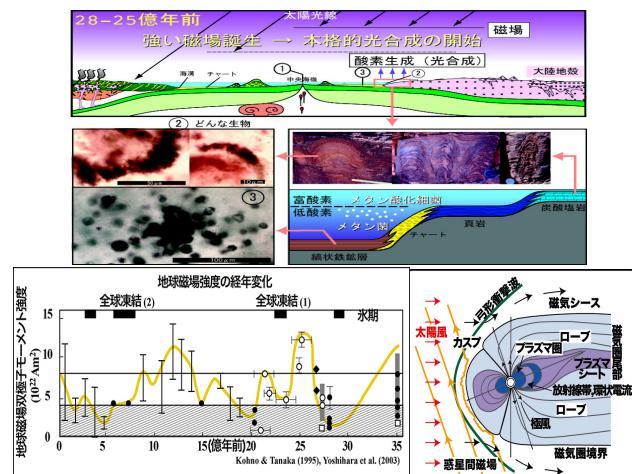
図3-17 原核生物の系統樹と生息温度



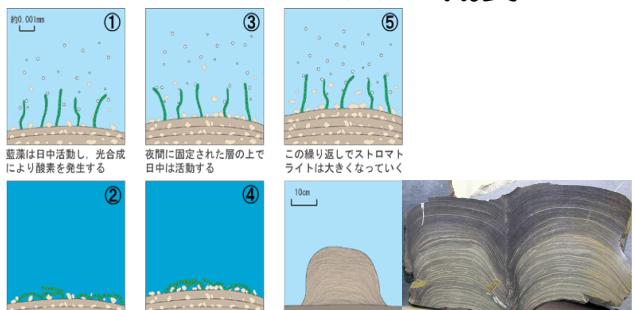
35億年前—生命の多様化、光合成の開始—



最古のストロマトライト(西オーストラリア)



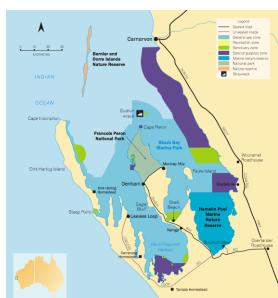
ストロマトライトの成長



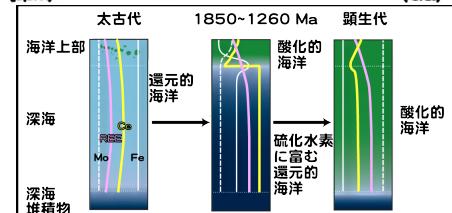
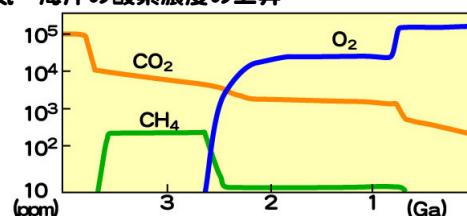
酵素発生型半合成の開始と大気酵素の増加

現在の地球にある“太古”の海

- (1) 高塩分濃度
—シアノバクテリア
ストロマライト—



大気・海洋の酸素濃度の上昇



(3) 縞状鉄鉱層型



(1) 鉄

縞状鉄鉱層

18億年前以前

海水中の Fe^{2+} が酸化されて、 Fe^{3+} になり、沈殿(FeO(OH))

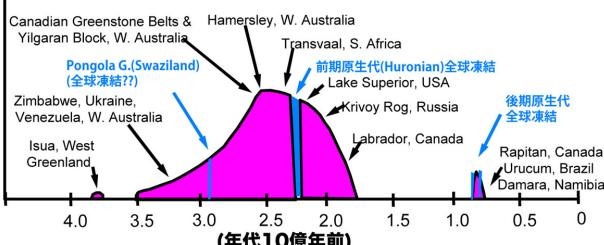
縞状マンガン層

23億年前

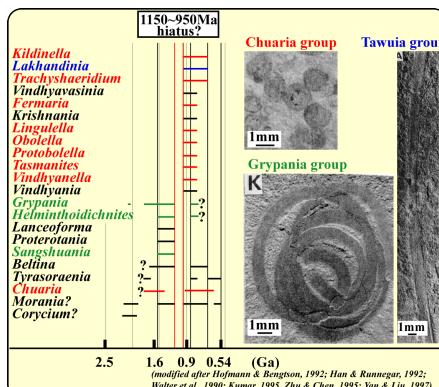
海水中の Mn^{2+} が酸化されて、 Mn^{3+} または Mn^{4+} になり、沈殿



縞状鉄鉱層(BIFs)の形成時期 (Klein & Beukes, 1992)



19億年前、macrofossilsの出現。



大きさ的に
も真核生物

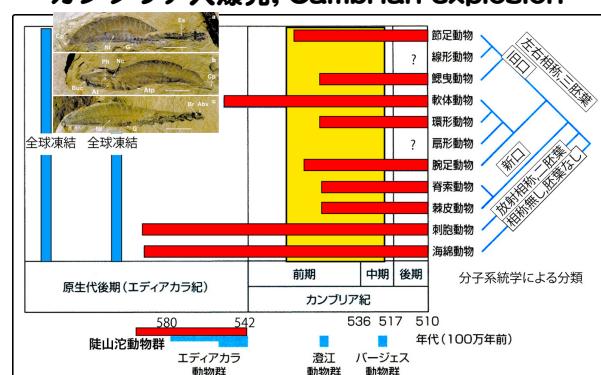
全球凍結 (6.4億年前)



(1) 地球表面での生命活動の停止
→(酸素発生型)
光合成の停止

海洋循環の停止
→海洋の成層化
→還元的深層水

カンブリア紀に現世の生物の祖先がほぼ出揃う
一カンブリア大爆発, Cambrian explosion



動物門の出現(動物の体制)の出現は一度だけ



- 動物門の出現(動物の体制)の出現は一度だけ
- 目レベルの増加もカンブリア~オルドビス紀